

総務文教常任委員会行政視察報告

五月十日から十二日までの日程で、富山県氷見市の「フューチャーセンター」機能を備えた市庁舎の概要」についてと福井県大野市の「結の故郷奨学金事業の概要」について、先進地の取り組みを本市の施策に活かすため行政視察を行いました。

氷見市役所は耐震性がなく、津波の浸水が想定されるため新たな場所へ庁舎移転を決定しました。

新庁舎は平成二十六年五月七日に開庁され、旧県立高校体育館と校舎を市庁舎に改造する類を見ない方式を採用し建設されました。

空いている県所有の公共施設を有効活用するアイデアで建設費用も安く抑えられ安全性や市民サービス向上を実現した取り組みです。安中市の市庁舎建設についても大いに参考になる案件であります。大野市は「大野へ帰ろう」を合言葉に、大学等に在学する若者の経済的負担軽減や大野への帰郷促

進として奨学金事業を始めました。月額一〜二万円の奨学金が無利子で借りられ、若者に大野市へ戻ってもらう内容を含めた施策です。返済期間内に住民登録かつ居住の場合は、返済額を二分の一への減免や市内で結婚し二人が住民登録かつ居住すれば返済を全額免除するという特典付きの制度です。安中市も新たな奨学金制度の創設等で若者に戻ってもらう人口減少対策や教育支援の充実を検討することも重要であると感じました。



大野市役所庁舎前

五月二十四日から二十六日までの日程で、石川県加賀市「高齢者お達者プランの取り組みについて」及び兵庫県高砂市「高砂市民病院の取り組みについて」行政視察を行いました。

加賀市では、十年後に高齢化率が三六%を超える見通しのため、高齢者が住みなれた地域で支え合い、その人らしく、自立した暮らしを継続できる社会の実現を目指しています。

現在、第六期高齢者お達者プランに三年間で二百八・六億の介護保険事業費を見込み地域密着型の介護サービス整備に取り組んでいます。全地域にサテライト型特別養護老人ホームを小規模で分散化配置し、住みなれた地域で暮らせるよう取り組んでいます。

高砂市は、九年前に十一億八千万円に膨らんだ赤字や、二十六億円の不負債権を抱えるなど深刻な経営難に陥った市民病院を四年で

福祉民生常任委員会行政視察報告

経営形態の見直しを行い黒字化する改革プランを掲げて、病院改革に取り組み、三年目で黒字化した実績があります。現在、医師不足が全国的な課題となる中、県外からも医師を確保し、新事業を多く取り入れ、市民病院の使命である地域医療の向上、特色ある病院づくりに取り組んでいます。両市とも大変興味深い取り組みであり、本市も参考にして今後取り組んでまいります。



高砂市民病院院内保育園